

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者・管理者が認知症の人やその家族を心から支援したいという思いが込められた「利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービス」としての理念が玄関や居間に分かりやすい表現で掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月行われる職員会議でも管理者と職員が共に理念を意識し、チームワークを考えながら話し合い、実践が理念に基づいたものになるように日常的に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者と職員は、近くの公園への散歩時に地元の人々にあいさつを交わしたり、地区民生委員や自治会長にパンフレットを配布するなどして、地域との関係作りに努めている。		地域の一員として、自治会や老人会、行事等、活動に参加するなど更なる取り組みを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員にサービス評価の目的や意義を分かりやすく伝えている。職員は、全員が評価のねらいや活用方法を理解し、各自が自己評価に前向きに取り組んでいる。		

宮崎県宮崎市 グループホームひまわりの杜

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの概要や活動内容及び自己評価や前回の外部評価の結果を報告している。参加メンバーからの意見や要改善点について助言を得、サービスの質の向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや市の担当職員に相談したりアドバイスを受けている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態については、毎月発行しているホーム便りや電話などで個々に合わせた報告をしているが、金銭管理や職員の異動についての報告は十分ではない。	○	遠方に居る家族に対しては、金銭について、使途の確認や金銭出納帳のコピーを送付するなど積極的な報告が望まれる。また、職員の異動による利用者のダメージを少なくするためにも家族への報告をお願いしたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時、常に問いかけ、何でも言ってもらえるように雰囲気作りを心掛けている。ご意見箱を設置し、出された意見や要望等は、ミーティングで話し合い、運営に反映させている。		家族同士の集まりの場で、気軽に意見を出せるような家族会を設けるなどの更なる取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者がある場合は、1週間程度、新・旧職員が共に生活しながら、できるだけ利用者へのダメージを少なくするよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には、できるだけ参加できるようにしている。それらの研修内容は復命書に記録し、毎月行われる職員会議で報告している。また、併設のデイサービスの職員と勉強会を行い、日々の体験を学びにつなげていくための取り組みをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加している。また、他の同業者の来訪を受け入れ、日々のサービスや職員育成に役立てている。		同業者との交流や連携を深めるためにも、他のグループホームへの見学の機会を設ける取り組みも期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が訪問したり、本人や家族に事業所を見学してもらったり、体験してもらうなど個々に合わせた利用開始の調整を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	清掃や食事の準備、散歩などを通じて年長者である利用者から生活の技や文化の大事さを学んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ把握に努めている。家族と連携を取り、自宅への外出や外泊など、できるだけ本人の意向に沿えるよう支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成は、日ごろの関わりの中で、利用者や家族の意見や思いを聞き、職員全員で意見交換を行い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとの定期的な見直しと担当職員の情報を確認し、利用者や家族の要望を取り入れながら随時の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービス利用者との交流や行事に参加している。		近隣の高齢者が状況に応じて、ショートステイやデイの利用ができるように、グループホームの機能の広がりを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医となっている。通院や受診は家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が同行している。かかりつけ医や家族への報告、連絡、相談をとり適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合の家族との話し合いは行っているが、かかりつけ医等との繰り返しの話し合いや職員全員での対応方針の共有はされていない。	○	重度化した場合や終末期における対応、医療処置の対応について、かかりつけ医等との話し合いと方針の統一が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が個人情報保護法の理解や情報の漏えい防止に努めている。また、訪問調査時は利用者一人ひとりのプライバシーを損ねるような態度や言葉かけは見られなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩やドライブ、料理やおやつ作り等、また、自宅への外出や外泊など一人ひとりのペースを大切にし、希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材や好みのメニューを利用者と職員と一緒に話し合ったり、食事の準備や後片づけ等を行っている。また、職員も同じ食事を一緒に食べながら、混乱や食べこぼし等のサポートをさりげなく行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は設定しているが、併設の人工炭酸泉浴や夏季はシャワー浴など利用者個々に合わせた柔軟な支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や食事作り、おやつ作り等を行ったり、女性の利用者には、楽しみごととして、衣類や化粧品の買物の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園への散歩や買い物、ドライブ、自宅への外出など一人ひとりのその日の希望に沿って戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが2階にあることから、利用者の安全面に配慮しながら、見守りのできる時間帯は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		

宮崎県宮崎市 グループホームひまわりの杜

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練や地区消防団、近隣への協力依頼の声かけは行っているが、夜間等の避難方法が確保されていない。	○	ホームが2階にあるため、避難スロープの設置が望まれる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの1日の食事や水分の摂取量を大まかに把握している。また、体調や食べるタイミング、介助の方法や食器など個々に合わせた工夫をしている。		栄養の専門的な観点から、定期的にチェックをしてもらうなど更なる取り組みも期待したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は異臭もなく、適度な音量、窓や開口部からの自然な換気と採光があり、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	品数の少ない居室はあるが、利用者が使い慣れたものや好みのものを生かして、本人が居心地良く過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。